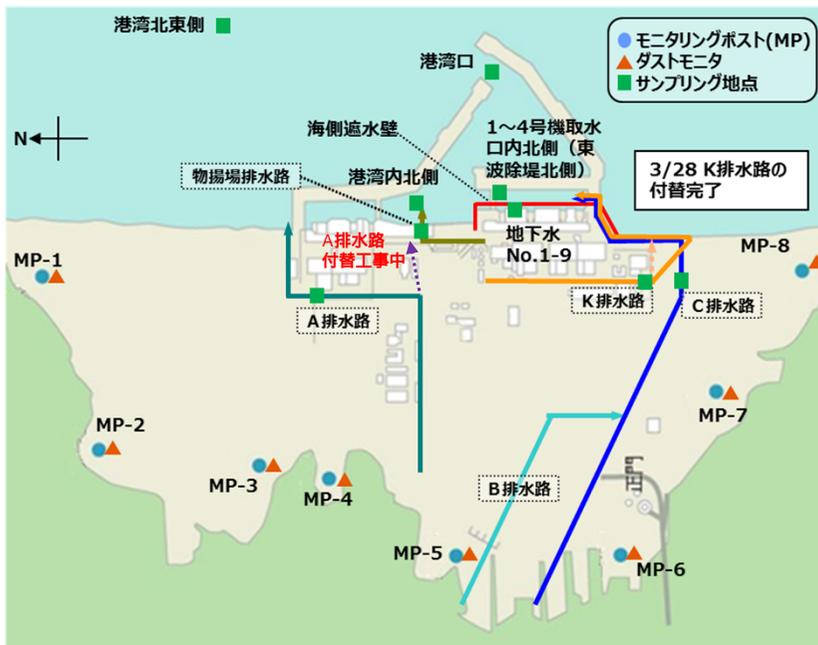
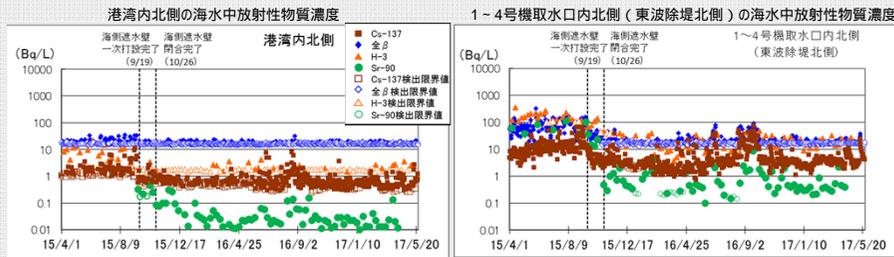


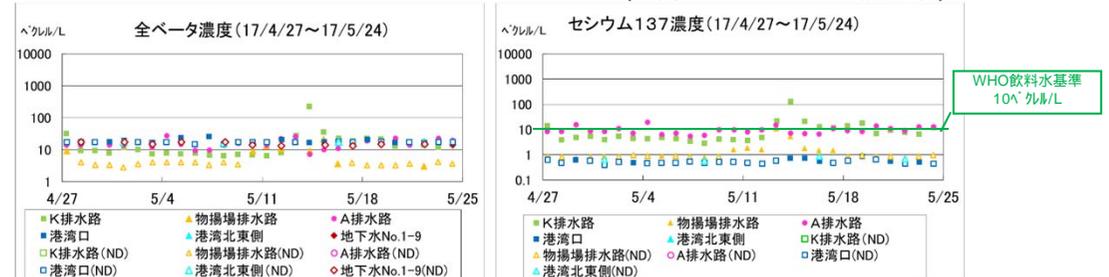
- 前回(4月27日)以降のデータ公開数は約11,300件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約11,300件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し(2015年10月5日)以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了し、オペフロ調査を実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
5月13日～14日の降雨の影響により、港湾内海水の放射性物質濃度に一時的な上昇が見られましたが、その他の期間は港湾内北側の海水中セシウム137濃度は1Bq/L前後の低濃度を維持しています。引き続き港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

A 水(海水、排水路、地下水等)

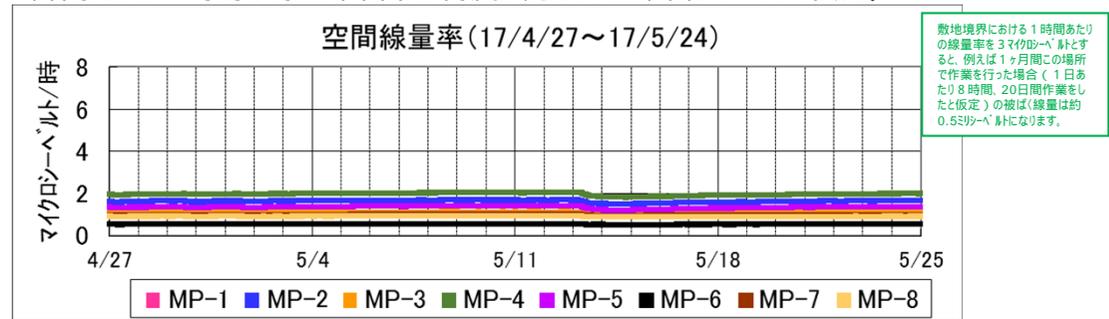
- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、降雨時のK排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。
(地下水 1-9については全ベータ濃度で監視)



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
(ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

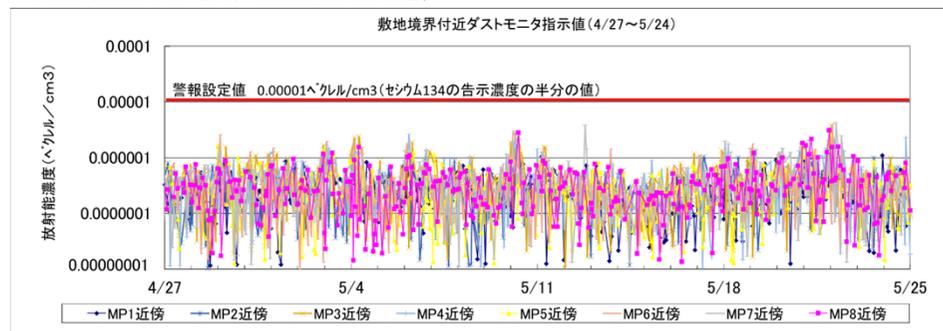
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

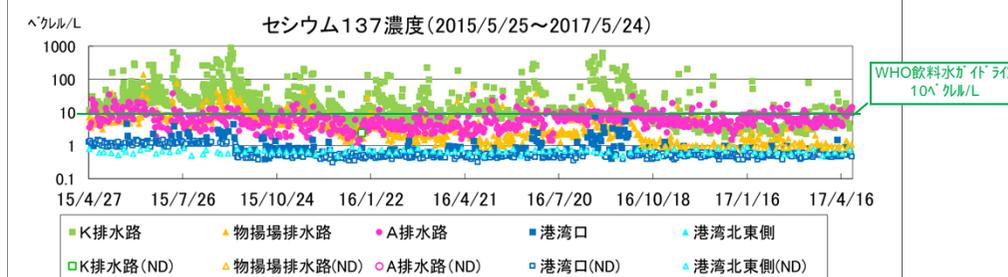
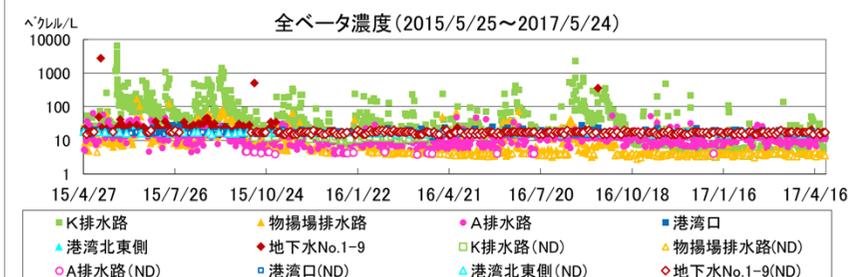


告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

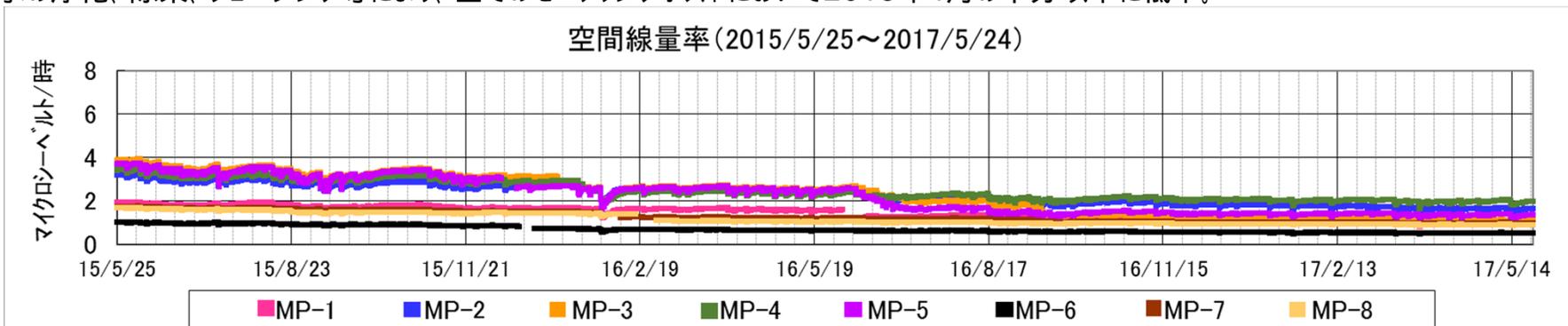
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



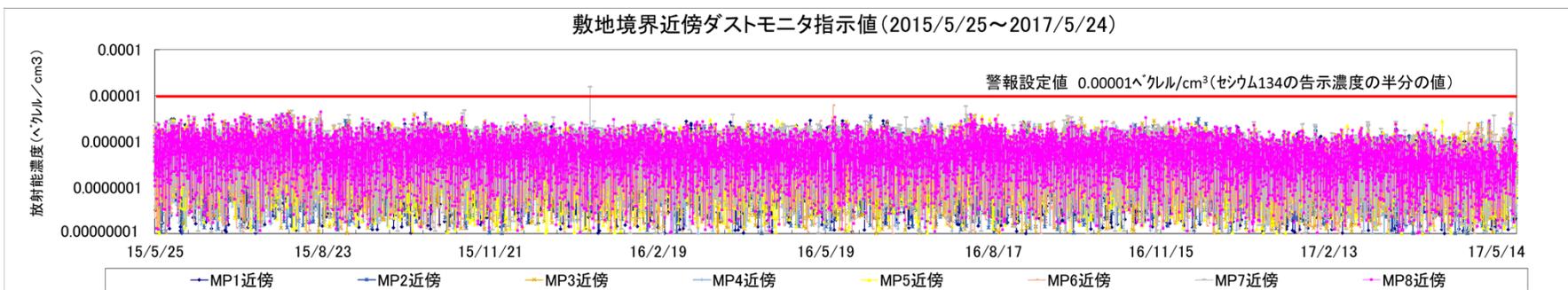
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



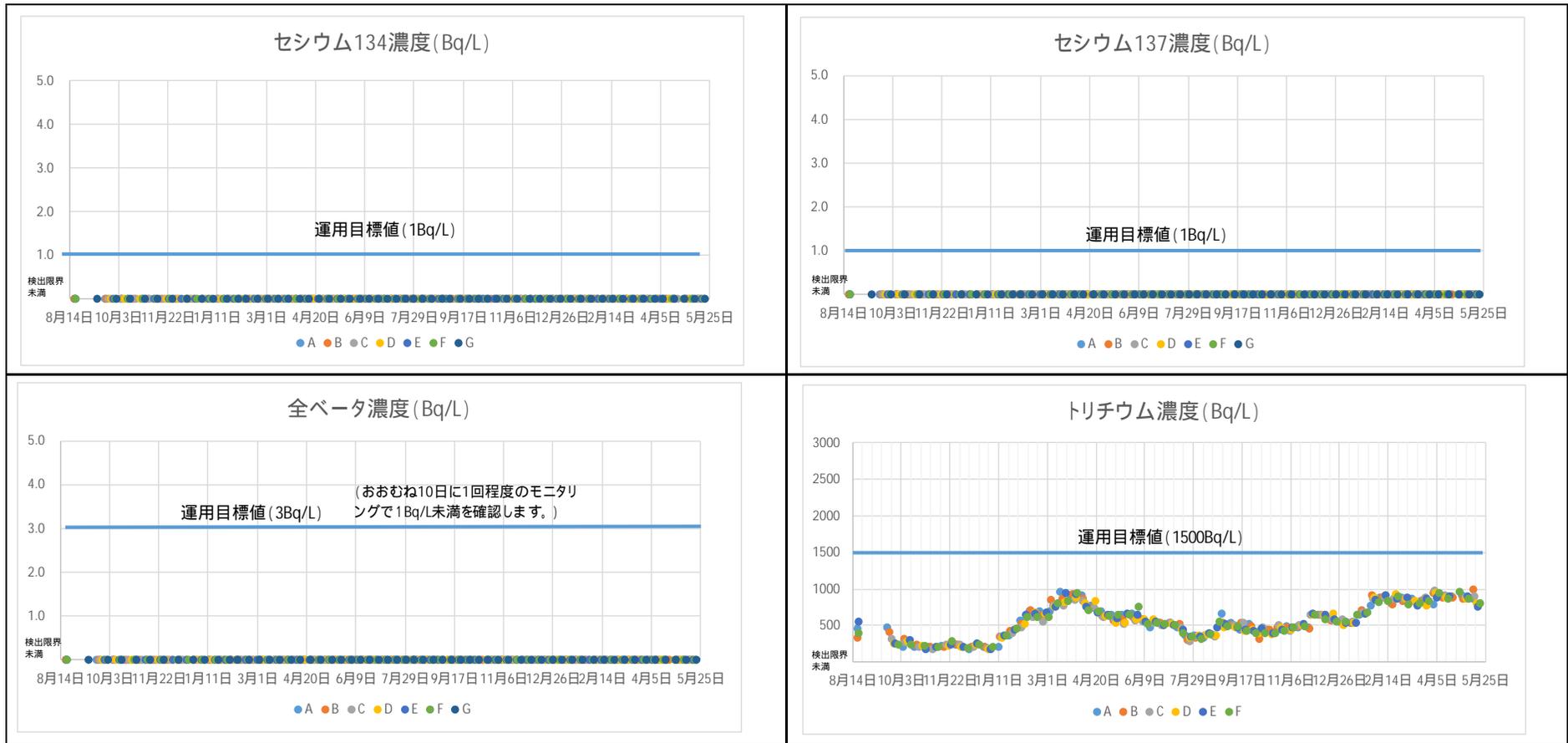
・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年5月23日までに合計400回、331,559m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

2号機燃料取り出しにともなう構台設置における被ばく低減対策について

- 2号機原子炉建屋からの燃料取り出しに向け、原子炉建屋西側にオペレーティングフロアへのアクセス構台を設置した。
- 構台設置においては、作業員の被ばく低減の観点から実施した代表的な対策は以下のとおり。
 - 【線源】 遮へいスーツ（タングステンベスト）の着用、遮へい小屋の活用
 - 【距離】 低線量ヤードの活用（3号機構台設置の工夫を2号機に水平展開）
原子炉建屋西側の構台設置エリア（平均0.15mSv/h）よりも原子炉建屋東側のヤード（平均0.05mSv/h）のほうが低線量であるため、なるべく低線量ヤードで作業を実施
 - 【時間】 鉄骨材のユニット化（3号機構台設置の工夫を2号機に水平展開）
あらかじめ鉄骨をユニット化することで、鉄骨を1本ずつ組み上げる工法よりも原子炉建屋近傍での作業時間を短縮
 - 【時間】 アンカー穴開け用足場の鉄骨ユニットへの取付（2号機以外にも水平展開可能）
構台の耐震性確保のために原子炉建屋の外壁にアンカーで固定するが、仮設足場を組むには時間を要するため、鉄骨ユニットに作業床を敷設して作業時間を短縮
 - 【時間】 遠隔操作型自動アンカー穴開け装置の採用（2号機以外にも水平展開可能）
アンカー穴開けの一部を遠隔かつ自動化し、高線量エリアから距離をとるとともに、自動化による作業効率も上がり作業時間を短縮
- 以上の対策等を実施した結果、構台設置作業における総被ばく線量は約1.86人・Svであった。作業前の計画線量約4.15人・Svに比べ、約55%程度低減して作業を完了することができた。
- 今後も作業員の被ばくを低減するよう工夫しながら作業を進めるとともに、2号機の知見を他号機にも水平展開していく。

【線源】 遮へいスーツの着用



タングステンベスト

【距離】 低線量ヤードの活用



【時間】 鉄骨材のユニット化



【時間】 遠隔操作型自動アンカー穴開け装置の採用

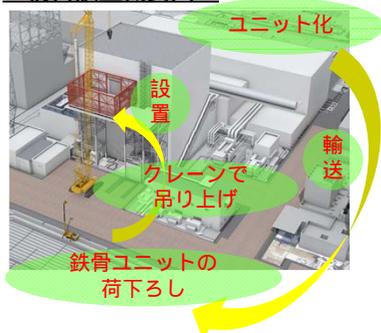


上下左右に移動



自動アンカー穴開け装置を遠隔操作

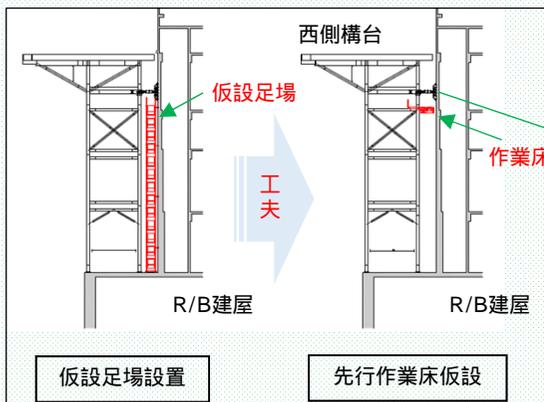
<構台設置概要図>



<構台全景>



【時間】 アンカー穴開け用足場の鉄骨ユニットへの取付



- 以下の作業を自動化
- ・ 鉄筋探査
 - ・ 墨出し（工事中に必要な線や位置などを床や壁などに表示する作業）
 - ・ 穴開け

原子炉建屋外壁断面（拡大図）

